

高等学校第2学年 国語「古典」学習指導案

期 日 平成25年10月31日(木)

授業者 教育センター所員 森永 央子

1 単元名

漢文の論理構造を理解する

2 単元について

平成21年3月に告示された高等学校学習指導要領において国語科は以下の三項目の変更を受けた。すなわち①「社会人として世の中に出ていく基盤となる言葉の力を身に付けさせるために、あらゆる教科の中核をなす科目として国語科を位置付ける、という色彩を明瞭にした」、②「言語活動を充実させる」、③「言語文化の重視」の三点である。この中で特に①に注目してみる。「社会人として基盤となる言葉の力」の獲得や「あらゆる教科の中核をなす科目として国語科を位置付ける」とは、一体どういうことなのであろうか。

「社会人」にしる、「あらゆる教科」にしる、その姿や学習内容は様々なのだから、それらすべてを国語科で扱うことは不可能である。とするならば、国語科で扱うべきは「語られる内容」だけではなく、「語り方」そのものももちろん含まれるということになる。言語活動を充実させることにより、「自分の意図を相手に正しく伝える技法」、「自分が相手の意図を正しく理解する方法」を学ぶことが重要なのである。

そこで本単元では、秦観の「淮海集」を教材に用いて、自分の主張を読み手に正しく伝える説明の方法を理解させるための学習を設定する。句法習得中心で進みがちな漢文の授業で、漢文の文構造に注目し、自分の意図を相手に正しく伝えるためには、「伝え方」、「語り方」といった技法が重要であると生徒に気付かせることを目的に選んだ教材である。前時に書き下し文と現代日本語訳の確認を行っている。本時は、前時に学習した内容に基づいて筆者の主張を読み取り、筆者がどのような方法を用いて自分の主張を読み手に伝えようとしているか、その「伝え方」の技法を身に付けさせたい。

本学級は、文系と理系両方の生徒が在籍するクラスである。古典に関しては、どの生徒も授業に熱心に取り組み、家庭学習もきちんと行っている。基礎・基本事項を再確認させつつ、古典の学習が現代の日常生活に役に立つものだ意識をもたせていきたい。

3 単元の目標

- ・句法を確認しながら本文を正確に音読することができる。
- ・本文の内容を構成や展開に即して的確に捉えることができる。
- ・主張を説明する方法として、具体例・対比・同義反復があることを理解できる。

4 単元の指導計画（全2時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
1	①音読を通じて、本文全体の読みを確認する。 ②現代日本語に翻訳する。	○音読では、返り点や送り仮名に注意させ、正確な読みを心掛けるように指導する。 ○指示語等に留意させ、的確な現代日本語に翻訳させる。	☆正確な音読ができているか。 ☆的確かつ自然な現代日本語訳ができているか。
2 本 時	①筆者の主張を捉える。 ②主張を伝えるために用いられている説明の方法（具体例・対比・同義反復）を理解する。 ③各段落の役割を理解する。	○繰り返しの部分に注目させ、筆者の主張を的確に捉えさせる。 ○教師の一方的な話にならないように留意し、できるだけ生徒に指摘させる。 ○筆者が自分の主張を読み手に正しく伝えるために、どのような工夫をしているか理解させる。	☆筆者の主張を正しく理解しているか。 ☆説明法を理解しているか。 ☆自分の意図を相手に正しく伝えるための工夫を理解しているか。

5 本時の目標

- ・筆者の主張を正確に捉える。
- ・自分の意図を相手に正しく伝えるには、論理構造や「伝え方」の技法が重要であることを学ぶ。

6 本時の評価規準

①関心・意欲・態度	②話す・聞く能力	③書く能力	④読む能力	⑤知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・句法及び訓読法を確認しながら本文を積極的に音読している。 ・自分の意図を相手に正しく伝える在り方について、意欲的に追及している。 			<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張を的確に捉えている。 ・自分の意図を相手に正しく伝えるために、筆者が文の論理構造に工夫を凝らしていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体例，対比，同義反復といった説明の技法を理解し，その知識を身に付けている。

7 本時の展開

時間 (分)	指導 過程	生徒の学習活動	教師の活動及び 指導上の留意点	評価の観点	評価方法
5	導 入	①本時の学習目標を確認する。	○1. 筆者の主張を正確に捉える, 2. 自分の意図を相手に正しく伝えるには, 論理構造や「伝え方」の技法が重要であることを学ぶ, という2点の本時の目標を伝えて, 授業の見通しをもたせる。		
5		②前時の学習内容を復習する。	○筆者は, 「小変」と「大常」の本質的意味を知る者は兵を使いこなすことができると述べていることを確認させる。		
5	展 開	③本文の音読を行う。	○一斉音読をさせる。	・音読に積極的に取り組んでいるか。(①)	・行動の観察
5		④筆者の主張を捉える。	○一段落と四段落で繰り返し述べられている「行小変而不失其大常也」の箇所が筆者の主張であることを確認させる。	・文章中の繰り返し表現が筆者の主張であることに気が付いているか。(④)	・行動の観察
10		⑤筆者が自分の主張を伝えるために用いている説明の方法について理解する。	○バルーンフェスタと唐津くんちの画像を提示し, 自分が行きたい方に友人を誘うには, 具体的にどのような言い方をすればよいか考えさせる。 ○自分の主張を理解してもらうために, 筆者が具体例・対比・同義反復といった方法を用いていることを確認させる。	・自分の身に置き換えて, 友人を説得する具体的な言い方を考えているか。(①) ・三つの説明法を理解しているか。(④, ⑤)	・行動の観察

10		⑥各段落の役割を理解する。	○各段落を読み返し、一段落から四段落までの役割をワークシートの表に記入する。 ○この文章全体が「変」と「常」の対比を反復することによって「常」の重要性を主張していることを理解させる。	・自分の主張を相手に納得してもらうための筆者の工夫を捉えているか。(④) ・文章は論理構造によって成立していることを理解しているか。(④)	・行動の観察 ・行動の観察
10	まとめ	⑦本時の学習を振り返る。	○相手に自分の意図を正しく伝えたり、自分が相手の意図を正しく理解したりするためには、「伝え方」「語り方」といった技法が重要であることに気付かせる。		

8 使用教材

- ・ 秦観^{しんかん}「淮海集」^{わいかいしゅう}

9 使用するICT機器・ソフトウェア

- ・ 電子黒板
- ・ PowerPoint 「漢文の論理構造を理解する」

10 参考文献

- ・ 文部科学省
『高等学校学習指導要領解説国語編』 平成22年6月
- ・ 国立教育政策研究所教育課程研究センター
『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料(高等学校 国語)～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～』
- ・ 日本国語教育学会
『豊かな言語活動が招く国語単元学習の創造 VII高等学校編』 東洋館出版社
- ・ 大修館書店
『国語教室』九十